

支援センターみらい  
平成 29 年度上半期事業報告

グループホームみらいは、4月に定員 10 名の建て貸し式ホーム（原田ホーム）を開設し、現在 9 ヶ所で 35 名の利用者が生活しています。懸念された建て貸し方式の利用者負担金も当初見込みより 2 万円減の月平均（53,000 円）となっており、従来の賃貸でのホームでの改修設備（スプリンクラーの設置等）を考えますと、今後のホームの運営手法の選択肢の一つになりうるものとかんがえております。

利用者状況は 8 月に 1 名退居いたしました。開所日数に対する利用率は前年 85.8%に対し 86.2%でこれは、ご家族の高齢化などにより、週末での一時帰宅者が減少したことによるものです。利用者数が増加した中で利用者支援では高齢化に伴う、通院体制や夜間での緊急時に対する体制づくり、土・日の支援体制が必要となってきたのが現状です。また、設備面では今年度設置義務であるスプリンクラー等整備（パッケージ型スプリンクラー）の設置を 5 ヶ所予定しています。

次に先述した原田ホームでは 8 月に 2 名定員の短期入所事業を開始しています。上半期の利用者数はセンターの体制不備により、支援体制を日中事業所の職員に協力してもらうということもあり、具体的実績はありません。

しかしながら、親和会の緊急時の受皿としての安心感には繋がっており、今後についてはいつでも利用できる体制をセンター内で構築できれば利用率も上昇するものと考えております。

相談支援事業においては、豊中市より委託相談支援事業を受託していることにより、自立支援協議会等への会議参加や一般相談への対応を行なっています。一般相談では、虐待や生活保護、住宅に関する案件など、相談内容が多岐に亘るため、各方面と連携をしながら対応するとともに、研修参加などによるスキルの向上を図っています。計画相談におけるサービス等利用計画作成やモニタリングについてが収入源となりますが、これは前年上半期実績に比べ 120 万増と順調に推移しています。

ヘルパーステーションあしすとにおいては、年度末にヘルパー登録数を整理し、実態での活動に切り替えましたが、利用者のニーズが多くあり、調整が困難であったことやヘルパーのスキルアップを図るため、7 月より法人職員も希望者を対象に体制に組み入れています。因みに上半期実績は前年比より 100 万増となっています。今後については職員のヘルパー連絡会（年 3 回）やヘルパー情報交換会（毎月 1 回）の参加により、ヘルパーのスキルアップを図っていききたいと考えています。